

特集

早池峰神楽の無形文化遺産登録

500年の時を超えて、
舞い継がれる奇跡の神楽。

北上高地のほぼ中央にそびえる靈峰、
早池峰山。古くから人々の信仰を集め、
中世になると山伏の修行の場となつて
いました。この山伏たちが早池峰神楽
の祖といわれ、その起源は南北朝時代ま
でさかのぼると言い伝えられています。

早池峰神楽は、花巻市大迫町の大償
地区に伝わる「岳神楽」の総称で、昭和51
年に国の重要無形民俗文化財の第1
号に指定されました。この二つの神樂
は源流を同じくするといわれています
が、奉納する神社も歿承の歴史も異
なる、独自の伝統を持つた神樂です。
しかしそこに共通してあるのは、深い神
への祈りと自然への感謝の気持ちです。
このような世界に誇る早池峰神楽を
守り伝え、さらに発信していくために、
「神楽の日」(毎月第2日曜日)の定期公
演の開催や神楽プロジェクトの始動な
ど、新たな取り組みが進められています。

人々の祈りが神楽を育て、
神楽は人々の心を支えた。

早池峰神楽が今回、無形文化遺産
として評価された理由はどこにあるの
でしょうか。民俗学や民俗芸能研究を
専門とする盛岡大学の橋本裕之教授は、次によ
うに説明します。

「歴史的に貴重なのは、『能』
が大成する以前の古い猿楽の形式が残っていること。しかし何
よりも素晴らしいのは、岳も大償も地域の信仰と結びつき、人々の祈りや願いを一身に受けて、その舞によって人々に慈愛や悦びを与えていたということがあります」。信仰色の強いものや娛樂的な神楽もある中で、早池峰神楽は圧倒的な舞の力で「独自の道筋」を駆け上った神楽であると、橋本教授はいいます。

人々の心に寄り添い、人々に悦びを

神楽を愛し、守り継いだ人々の心。 世界に誇る岩手の宝として、大切に伝えたい。



◎岳神楽の「謳誦舞」
鎮魂・悪霊退散の舞曲といわれる「荒舞」の一つ、「謳誦舞」(ふうしょうまい)。鈴木を降って悪魔邪氣を退散させる早拍子の舞。



◎大償神楽の「鳥舞」
神楽を奉じるとき最初に舞う「式舞」の一つである「鳥舞」。イザナギ・イザナミの二神の舞で、神楽座を清める最初の舞。

早池峰山



盛岡大学・
橋本裕之教授

与えてきた早池峰神楽。世界が評価しているのは、舞の芸術性だけではなく、神楽を愛し、大切に守り継いできた岩手の人々の心そのものなのです。

**神楽を育てた故郷を守り、
伝統をしつかりと受け継いでいく。**

大償地区は花巻市大迫町の中心部から約5キロ、16戸の家々が集まる小さな地区です。この地に伝えられる「大償神楽」は、大償神社の奉納神楽。早池峰山の開祖である田中兵部が建立した田中明神の神主より、別当家に伝授されたといわれています。以来、大償の人々を中心に神楽は伝えられ、50年以上もの間、その型を変えることなく、大切に守り継がれてきました。

現在、大償神楽保存会(会員18人)会長を務める佐々木裕さんは、別当家の13代目。「胴取り」



岳神楽

**地域の人々のために舞い、
地域の人々と悦びを分かち合う。**



夜の神楽公演を終えた、岳神楽保存会の皆さん。前列一番右が小国朋身会長。



岳神楽の鑑賞に訪れたドイツからの観客。

岳権現様に病魔を退散してもらう様子。

岳権現様に病魔を退散してもらう様子。

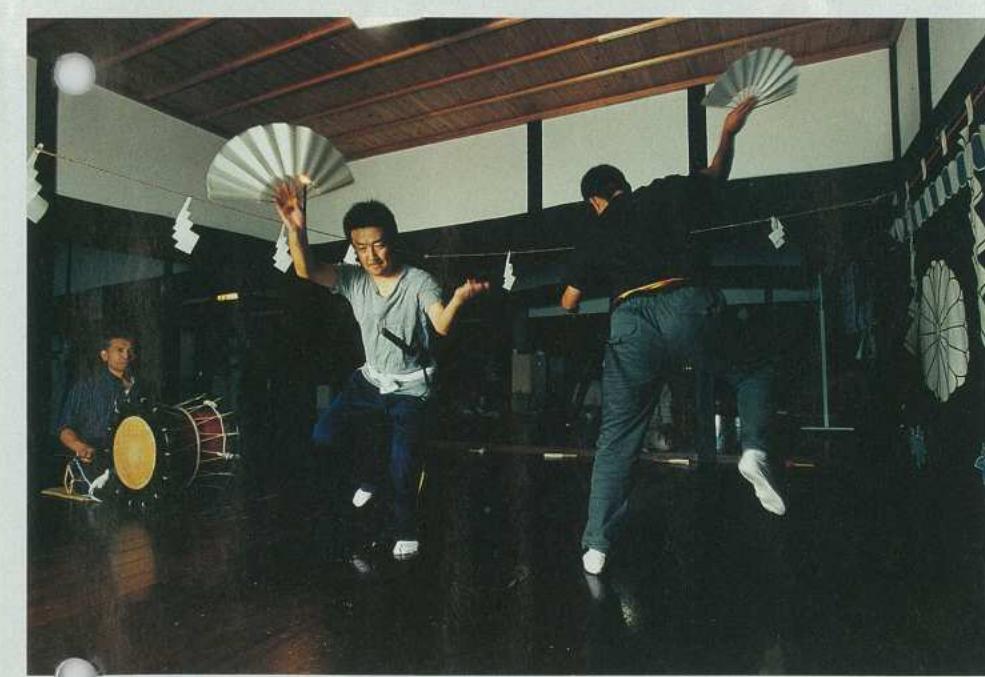
「神楽を支えてきたのは、この地域の絆。地域の人々の祈りや思いが、神楽を育ててきたのです。だからこそ登録の喜びをみんなで分かち合いたい」と、小国会長は力を込めます。神楽は「芸ではなく、」地域の人々“のためのもの。岳神楽では今でも、個人宅に神楽を奉納する「宿神楽」が続けられ、地域の暮らしの中に息づいています。



大償地区から約12キロ、岳川をさかのぼった所に11戸の家々が並ぶ岳地区はあります。早池峰山に最も近いこの地区には早池峰神社があり、「岳神楽」はこの神社の奉納神楽です。ここに社寺が建てられたのは14世紀の初め頃。江戸時代には南部家の庇護を得ていました。

岳神楽は山伏から伝えられたといわれ、神に仕える「六坊」によって伝承されてきました。今もこの六坊は現存し、神楽衆の中心を担っています。岳神楽保存会(会員16人)会長の小国朋身さんも、六坊のまとめ役を務める生粋の神楽人。

「小さな頃から神楽を聴いて育ち、



毎週水曜日は週1回の稽古の日。熟練者から若手に厳しい指導が行われる。



四方を鎮めて豊作を祈る
「山の神舞」。

彷彿とさせる勇壮な舞も多く、岳独特の世界観で人々を魅了します。

と呼ばれる太鼓を担当し、神楽衆をまとめています。「神楽は、この土地の自然や風土がはぐくみ、授けてくれたもの。大償の自然の中で育った共通の記憶や故郷を愛する心が、神楽を守つてきたのだと思います」と、佐々木会長。その一方で、後継者の育成も大きな課題。そのため保存会では、少しでも神楽に興味を持つ子どもたちを増やそうと、地元の保育園や小学校に出向いて、熱心に神楽の指導を行っています。「無形文化遺産になつても、私たちは何も変わりません。この地を守り、今やつていることを、そのまま頑張つていくだけです」。その言葉には、連綿と続く伝統を守ってきた誇りと強い決意に満ちていました。

大償神楽